

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の対策

市川三郷町立三珠中学校

本年度実施しました「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と今後の対策について、まとめましたのでご一読ください。

本調査は毎年、マスコミ等にも取り上げられ、他都道府県との比較が話題にあがりますが、あくまでも生徒一人ひとりの学力向上のために活用するものです。本調査の結果を踏まえて、本校生徒の学力と生活の質がさらに向上するよう、指導法の工夫や授業改善等に組織的・計画的に取り組んでいく所存です。

今後とも本校教育にご理解とご協力をお願いいたします。

1. 調査目的

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を明らかにするとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2. 対象学年

- 国・公・私立の中学校3年生の全生徒

3. 実施期日

- 令和7年4月17日（木）

4. 調査内容

①教科に関する調査（国語・数学・理科の学力調査）

各教科において、学習指導要領で育成を目指す「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に問う問題。なお、理科はC B T (Computer Based Testing)方式を導入。

②生徒質問調査

生活習慣、学習習慣、学校生活、自己有用感、規範意識、学習内容等に関する質問調査。

5. 本校の学力調査の結果と今後の対策について

（1）結果

教 科	国 語	数 学	理 科
全国との比較	やや下回る	かなり下回る	やや下回る

*上記「全国との比較」は、総質問に対する正答率の平均について、下の基準により記述

かなり上回る	10ポイント以上、上回っている場合
やや上回る	5ポイント以上、10ポイント未満、上回っている場合
同等	±5ポイント未満内にある場合
やや下回る	5ポイント以上、10ポイント未満、下回っている場合
かなり下回る	10ポイント以上、下回っている場合

(2) 結果をもとにした今後の改善のための取組

	国 語
分析と改善策	【分析】 ① 漢字に関する問題の正答率が低い。 ② 手紙で伝えたり、理由を説明したりするような文章表現に苦手意識がある。 【改善策】 ① 中学3年生の漢字の学習だけではなく、様々な学年の漢字を学習する機会を設ける。 ② 生徒が自分の意見や考えを文章で表現する機会を増やし、意見とそれにとまなう理由を明確に記述できるよう指導する。
	数 学
分析と改善策	【分析】 ① 知識をもとに、それを活用して解答する問題の正答率が低い。 ② 特に「データの活用」の正答率で、県・全国平均との差が大きい。 【改善策】 ① 知識を活用する場面では、いたずらに暗記に頼るのではなく、「なぜそうなるのか？」という意識を生徒自身がもつように丁寧に指導する。 ② データの活用は年度末に慌ただしく指導することにならないよう、見通しをもった授業計画を立て、実行する。
	理 科
分析と改善策	【分析】 ① 「地球領域」における内容の正答率は、山梨・全国と比べて非常に低い。 ② 「地球領域」の中でも特に「地層の性質」に関しての差が大きい。 【改善策】 ① 実際に触れる、実験を行うなどの実践的な授業を行い、知識の定着を図る。 ② 帯学習で「地球領域」についての単元テストを行い、知識の定着を図る。

6. 学習状況(質問紙)調査について

質問紙調査では、多くの質問が下のような回答を選ぶ方式になっています。

- ◇肯定的回答：「1 : よくしている(よくあてはまる)」
「2 : どちらかといえばしている(どちらかといえば、あてはまる)」
- ◆否定的回答：「3 : あまりしていない(どちらかといえば、あてはまらない)」
「4 : まったくしていない(あてはまらない)」

これを受け、「肯定的な回答」、「肯定的でない回答」という見方で分析を行いました。

Ⅰ 生活習慣、学習習慣、学校生活、自己有用感、規範意識、学習内容等に関する質問

【概況】

肯定的回答かそうでないか、を聞く質問項目34項目のうち、肯定的な回答率が全国を上回ったのが19項目で全体の56%でした。56%という数値は、ここ数年間の中でもっとも低い割合となりました。

質問領域の中で、全質問で肯定的回答が全国を上回ったのは「他者との協働」で、特に「友だち関係に満足しているか？」の質問にはすべての生徒が肯定的な回答をしていました。

一方で肯定的回答が全国を下回る割合が多かったのが「生活習慣・学習習慣・学校生活」でした。5問中3問で下回っていたのに加えて、平日・休日の学習時間についての質問で全国の平均学習時間を下回る結果となりました。

【内容別の様子】

(1) 生活習慣・学習習慣・学校生活

生活習慣では、朝食を100%の生徒がとれている一方で、起床に関して(同じくらいの時刻に寝る・起きる)は、肯定的回答が全国を下回っています。

学習習慣・学校生活では、「学校は楽しい」と答える生徒が9割を超えていました。これからは生徒たちがそう感じる学校づくりを進めていきたいと思います。一方で、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫していますか？」の問いについての肯定的回答の割合は全国よりも13.8%も低いことが分かりました。

また、毎日(平日)の学習時間と休日の学習時間ともに全国の平均値より平日で1日あたり20分以上、休日で30分近く短いことが見取れました。

(2) 自己肯定感・有用感・自己管理

「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか？」の問いに対してすべての生徒が肯定的な回答をしました。また、「自分には良いところがある」、「先生は良いところを認めてくれるか」についてもそれぞれ8割以上、9割以上の生徒が肯定的な回答をしています。その一方で「将来の夢や目標を持っていますか？」の問いに肯定的な回答をしたのは7割程度で、全国と比べるとやや高いですが、昨年度と比べると約17%程低くなっています。

(3) 規範意識

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？」と「人の役に立つ人間になりたいと思いますか？」の問いに対してはすべての生徒が肯定的な回答をしました。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？」の問いには8割以上の生徒が肯定的な回答をし、これは全国を8.6%上回っています。一方で「人が困っているときは進んで助けますか？」の問いに肯定的な回答をした生徒は7割程度にとどまり、全国と比べて20%程度低い回答率となりました。

(4) 他者との協働

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？」では8割以上の生徒が、「友だち関係に満足していますか？」の問いにはすべての生徒が肯定的な回答をしました。

(5) 本や新聞との関わり

「読書は好きですか？」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合は5割弱で、全国と比べると約16%程低い割合となりました。また、「新聞を読んでいますか？」の問いに「毎日」と答えた者はいませんでした。週に1～3回、月に1～2回と答えた者の割合は全国よりも高く、特に月に1～3回と答えた者の割合は全国の3倍以上となりました。

平日、学校の授業以外の読書時間については、平日1日あたり30分以上読書をする者の割合が全国では2割を超えるのに対して本校では1人もいませんでしたが、1日あたり10分から30分未満と回答した生徒の割合は全選択肢中、最も高くなりました。

(6) 自然や地域、外国との関わり

「生活の中での自然との関わり」と「地域や社会への貢献願望」についての質問に8割以上の生徒が肯定的な回答をしました。これは全国と比べると、やや高い値になります。また、「地域の大人の教育や遊びへの関わり」を問う質問に、「よくある。ときどきある。」と答えた生徒は過半数を超え、全国と比べて25%以上高い結果となりました。

(7) 学校のICT機器の活用(1・2年時)

「1・2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか？」の問いに対して、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合は全国の2倍以上にのぼり、本校の授業ではICT機器が頻繁に使われていることが分かりました。また、ICT機器を使ってできることの質問に対しては「文章をつくること」に8割以上、「情報の収集」、「情報の整理」、「プレゼンテーションの作成」に7割以上が1・2年のときの授業で「行っている」と答えています。

(8) 多様な学びの展開・学習の活用・支援

11問中8問で8割以上の生徒が、その8問中5問で9割の生徒が肯定的な回答をしていました。特に全国と比べて肯定的な回答の割合がもっとも高かった質問は「1・2年のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しましたか？」で27.9%高く、次いで「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか？」は全員が肯定的な回答をしており、全国と比べて22.7%高い結果となりました。逆に全国と比べて肯定的な回答率が低かったのは「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか？」で18.8%低い結果となりました。

この他にも「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか？」の問いは、肯定的な回答をした割合が100%でした。

② 調査した教科（国語・数学・理科）に関する質問

【概況】

今年度の対象教科(国語・数学・理科)について、「その教科が得意か?」、「その教科が好きか?」など、その教科に向かう姿勢についての質問、国語8問、数学8問、理科11問についての三珠中3年生の概況は以下の通りでした。

(1) 国語

8問中5問で肯定的な回答の割合が全国を上回りました。特に「国語の授業で、先生はあなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいませんか?」と「国語の授業で、先生はあなたの良いところや前よりもできるようになったところはどこかを教えてくださいませんか?」など授業中の先生の指導に関わる問いでは約20%全国を上回っています。一方、「国語の勉強は得意ですか?」は20%以上、「国語の勉強は好きですか?」と「国語の授業内容はよく分かりますか?」の問いでは肯定的な回答率が全国を10%以上下回る結果となりました。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか?」の問いは全生徒が肯定的な回答をしています。

(2) 数学

8問中7問で肯定的な回答の割合が全国を上回りました。下回った問題も誤差3%程度でほぼ同等と見ることができます。

もっとも全国を上回ったのは「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか?」で全員が肯定的な回答をし、全国との差は24.8%でした。次いで「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか?」も全国よりも23.2%高く、この2問については特に生徒たちは肯定的に捉えていることが見て取れます。

(3) 理科

11問中5問で肯定的な回答の割合が全国を上回りました。特に「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか?」の問いに肯定的な回答した生徒の割合は45.5%と半数近くに達し全国を23.8%も上回っていました。一方、「理科の勉強は得意ですか?」、「理科の勉強は好きですか?」、「理科の授業の内容はよく分かりますか?」の問いはいずれも肯定的な回答の割合が全国を14%~18%下回っています。

7. 考察と今後に向けて(学校グランドデザインと関連付けて)

Ⅰ 確かな学力

- ★わかる授業、意欲を高めるための授業改善 (立川)
- ★学ぶ喜びを実感し、自ら主体的に行う家庭学習 (小野)
- ★基礎学力の定着と多角的・多面的な思考を促す朝学習の充実 (立川)
- 話し合いや発表、対話的な学習活動の充実 (立川)
- 個・集団それぞれにとって力がつく放課後学習の充実 (小野)
- 外国語教育の充実 (小野・デイル)
- 自分の考えを人前で発表する表現活動の充実 (深澤)
- 豊かな学びのための有効な予算執行 (渡邊)
- ※★は今年度の重点項目

今回、国語・数学・理科の検査と生徒質問紙の結果から見えてくる「確かな学力」に関わっての成果と課題について考察します。

国語・数学・理科ともに正答率が全国平均値よりも下回っています。国語と理科については生徒質問紙の「〇〇の勉強は得意ですか?」と「〇〇の勉強は好きですか?」の両問いともに肯定的な回答が全国平均を大きく下回っています。日頃から教科担当の先生方は丁寧な指導を心がけてくれています。この状況を事実として受けとめて、「好きこそ物の上手なれ」という言葉もある通り、まずは、より生徒たちが自然と興味をもてるような授業づくりに努めていきたいと考えます。その上で「分かる授業づくり」に注力していきたいと考えます。

一方で、数学は上記2つの問いの肯定的な回答率が共に全国を上回っているにも関わらず、正答率でかなり下回る結果となりました。生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かりますか?」の問いにも肯定的な回答をした生徒は8割を超えているにも関わらず、今回、このように正答率が伸び悩んだのは、授業で理解したことの定着が不十分であったためだと考えられます。また、生徒質問紙からは平日・休日の家庭学習をする時間も全国と比べて短いことが明らかになっています。この点を改善するためにも、グランドデザインに挙げた「家庭学習の充実」をいかに実現させていくかと、「朝学習をいかに学習内容の定着のための手立てとして有効活用できるか」を考え、今年度中に何らかのアクションを起こし、年度内に検証して新年度に繋げていきたいと考えます。

2 豊かな心

- ★生徒の望ましい生活習慣づくり（深澤）
- ★個別の支援が必要な生徒の情報共有と理解及び適切な支援（教頭）
- 自他共にリスペクトする生徒の育成（川口）
- いじめを「許さない」、「させない」指導の徹底（深澤）
- 自発的な委員会活動（串松）
- 読書や新聞を読む機会を通しての豊かな心の育成（遠藤）
- 不登校を防ぐ手立て、保護者やSC等との連携（高倉）
- 教職員が健康で情熱を注げる勤務態勢の確立（校長）

生徒質問紙の結果から見えてくる「豊かな心」に関わっての成果と課題について考察します。生活習慣に関して、多くの生徒は望ましい生活習慣を身につけていますが、一部の生徒の起床時間について不安定であることが見て取れます。また、規範意識に関しては正義感や社会貢献意欲は高いものの、人が実際に困っていても行動に移せない生徒が一定数いることが見て取れます。また読書や新聞との関わりについては、学校の教育活動の一環で保障された時間に本や新聞を読むことはあっても、自ら進んで読む生徒は少ないことが想像されます。これらの課題を改善するためには、生徒たちが自分たちの課題はどこにあるのかに気付く必要があります。保健委員会による保健集会や図書委員会による図書集などの自発的な委員会活動を通して、課題に気づき、自ら改善の手立てを講じるような生徒を育てていきたいと考えます。また、道徳の授業に限らず日常生活で起る様々な出来事の中から道徳的な価値を獲得し、豊かな心を育めるよう生徒を導いていきたいと考えています。

3 健康安全

- ★全校体制で継続的に楽しみながら体力を培う活動の推進（河西）
- ★避難訓練・交通安全等の安全教育を通して、自分の命は自分で守ろうとする意識の向上（教頭）
- 安全で効果的な部活動の推進（河西）
- 情報モラル教育の推進（丹沢）
- 校内環境美化の推進（藤田）
- 施設・設備の適正な管理・整備（教頭）
- 生徒自身が考えて行う健康管理（高倉）
- 感謝の気持ちを育てる食育の推進（望月）

今年度、生徒質問紙の中の「健康安全」に関わって質問は、『2 豊かな心』の生活習慣に関わる質問と重複したもの以外にはありませんでした。故に考察・今後に向けての手立てともに『2 豊かな心』の項をご参照ください。

4 地域・家庭連携

- ★地域学校協働本部を活用した地域連携（校長）
- 地域を知り、地域の探究意欲をかきたてるみさと学の推進（立川）
- ホームページや各種たよりにより情報発信（校長）
- 三校連絡会を通しての小中連携の推進（校長）
- 敷居の低い開かれた学校づくり（教頭）

生徒質問紙の結果から見えてくる「地域・家庭連携」に関わっての成果と課題について考察します。

「地域の大人の教育や遊びへの関わり」を問う問題で「よくある・ときどきある」と回答した生徒の割合は全国を25%以上も上回っていました。これは1年時の福祉講話・ナースングプラザ三珠訪問・町内めぐり、2年時の職場体験、3年時の思春期体験、そして学園祭のオープニングを飾る「希珠太鼓」の取組など、地域の方々の力を借りて行う教育活動を通して、生徒たちが大きな充実感や多くの学びを体感しているからだと思われます。

今後とも教育的意義の大きなこれまでの「地域とタイアップした活動」を大切にしつつ、さらに学校にとっても地域にとっても互いにウィンウィンな活動を地域学校協働本部を活用して組み込んでいけたらと考えています。更には、現時点の計画では3年後に迫り来る市川三郷町立中学校の統合も考慮して、他中との交流活動を踏まえた地域に関わる活動など、教育課程の編成も工夫していきたいと考えています。